



Takashi Sato Schubert-Zyklus

佐藤卓史 シユーベルトツイクルス ピアノ曲全曲演奏会

第14回

ピアノ・ソナタV
—幻想—

フランツ・シユーベルト：

メヌエット 豊ハ短調 D600 (1814?)

ピアノ・ソナタ 断章 豊ハ短調 D655 (1819)
(未完・佐藤卓史による補筆完成版)

ピアノ・ソナタ 第9番 豊ヘ短調 D571+604+570 (1817)
(未完・佐藤卓史による補筆完成版)

ピアノ・ソナタ 第18番 ト長調 D894「幻想」(1826)

2020年 6月 3日(木) 18:30開場 19:00開演

東京文化会館小ホール

入場料(全席自由):一般4,000円 学生2,000円

design by MAI KUDO

後援：株式会社ヤマハミュージックジャパン 鍵盤マーケティング部 ピアノ・EKBマーケティング課 ベーゼンドルファージャパン、
株式会社河合楽器製作所、島村楽器株式会社、月刊ショパン、一般社団法人 日本ピアノ調律師協会、
一般社団法人 全日本ピアノ指導者協会(ピティナ)、国際フランツ・シユーベルト協会、フランツ・シユーベルト・ソサエティ、
東京藝術大学音楽学部同声会、東京藝術大学音楽学部附属音楽高等学校響親会

マネジメント・お問い合わせ：アスペン 03-5467-0081

チケット取扱：アスペン 03-5467-0081 東京文化会館チケットサービス 03-5685-0650

チケットぴあ 0570-02-9999 (Pコード:191-901)

Aspen

佐藤卓史シーベルトツィクルスとは…

第11回シーベルト国際ピアノコンクールの覇者佐藤卓史が2014年にスタートした、フランス・シーベルトのピアノ関連器楽曲（独奏曲、連弾曲、室内楽曲）のすべてを網羅的に演奏するプロジェクトです。最新の研究成果を駆使しての知的な洞察、独自の観点からの未完作品の補筆など、作曲家への愛情と共感に溢れた新しいシーベルトの世界を提示しています。

使用楽器は「ベーゼンドルファー・インペリアル」。

ベーゼンドルファー社はシーベルトが他界した1828年にウィーンで創業、以来世界有数のピアノメーカーの一員に君臨し続けています。昔ながらの手づくりにこだわり、鉄骨フレームではなく木製の外枠で弦の振動を増幅させる設計は、他のピアノとは全く異なるベーゼンドルファーだけの特徴。これによって生まれる優しくまろやかな音色は「ヴィンナ・トーン」と呼ばれ、シーベルトに代表されるウィーンの音楽との相性は抜群です。なかでもフラッグシップモデルの「290」は、通常のピアノよりも低音域が9音拡張され、97の鍵盤を持つ超大型コンサートグランド。拡張された9鍵は、通常使用されることはありませんが、低音弦の共鳴が深く温かい響きをもたらし、「インペリアル」の愛称で知られています。



ピアノ・ソナタ第5夜のキーワードは「幻想」。

前半は、未完のソナタ2曲を紹介。提示部のみが残された嬰ハ短調の断章D655と、両端楽章が完結していない嬰ヘ短調のD571+604+570は、ベートーヴェンの「幻想曲風ソナタ」作品27の第2曲（いわゆる「月光」ソナタ）からの影響が指摘されています。瑞々しい感性が滴り落ちるような楽想、未完ゆえに演奏されないのはもったいない、と佐藤卓史が補筆を施しました。後半は、「幻想ソナタ」として知られる後期の傑作D894。シーベルトの生前に出版された3曲のピアノ・ソナタの最後の作品ですが、初版時に「幻想曲、アンダンテ、メヌエットとアレグレット」という小品集の体裁で出版されたせいで、「幻想」のニックネームで呼ばれるようになりました。時間を忘れて搖蕩う幻想の宵、どうぞお聴き逃しなく。

詳しくは連動ブログで！ [シーベルティアーデ電子版](#)



Profile

プロフィール●佐藤卓史(さとう・たかし)

1983年秋田市生まれ。高校在学中の2001年、第70回日本音楽コンクールで第1位。東京藝術大学を首席で卒業後渡欧、ドイツ・ハノーファー音楽演劇大学ならびにウィーン国立音楽大学で研鑽を積む。その間国際舞台においてめざましい活躍を遂げ、2006年ミュンヘンARD国際コンクール特別賞、2008年シドニー国際コンクール第4位ならびに最優秀ショパン演奏者賞、2010年エリザベート王妃国際コンクール入賞、2011年カントゥ国際コンクール第1位、メンデルスゾーン国際コンクール最高位など受賞多数。とりわけ2007年第11回シーベルト国際コンクールでの優勝と、その後の世界各地での演奏活動によりシーベルト弾きとしての国際的名声を獲得した。

指揮者ジョナサン・ノット氏の指名により、同氏の東京交響楽団音楽監督就任披露演奏会においてソリスト（ブラームス：ピアノ協奏曲 第1番）を務めたのをはじめ、NHK交響楽団、日本フィルハーモニー交響楽団、神奈川フィルハーモニー管弦楽団、大阪交響楽団、シドニー交響楽団、ベルギー国立管弦楽団など内外のオーケストラと多数共演。

ウィーン楽友協会、ルクセンブルク国立音楽院などのヨーロッパの主要コンサートホールのほか、2011年にはシリア・ダマスカスのダール・アル・アсад文化芸術劇場でソロリサイタルを開催。2013年にはデビュー10周年を記念してリサイタルツアー「ベートーヴェン 4大ピアノ・ソナタを弾く」を実施、全国16都市で演奏し好評を博した。

2007年にデビューアルバム「ラ・カンパネラ～珠玉のピアノ小品集」（ナミ・レコード）をリリースして以来、レコーディング活動にも積極的に取り組んでおり、シーベルト作品集（ドイツ・BELLA MUSICA）、ショパン作品集（ナミ・レコード）、ブルクミュラー作品集（ナミ・レコード）、ベートーヴェンソナタ集（Tactual Sound）など多数のソロアルバムを発表。佐藤俊介と共に演じたCD「グリーグ：ヴァイオリン・ソナタ集」（ナミ・レコード）は第62回文化庁芸術祭大賞に輝いた。放送出演も多く、NHK「ららら♪クラシック」「クラシック倶楽部」「ベストオブクラシック」BSテレ東「おんがく交差点」などに出演。室内楽、作編曲など多方面で活躍している。国際フランス・シーベルト協会会員。

公式サイト www.takashi-sato.jp

